

福祉用具・機器等開発支援事業 研修会

健康長寿産業は、超高齢社会の諸課題の解決に貢献するとともに、今後、大きな需要が見込まれる産業です。県内企業の皆様が健康長寿産業へ新規参入し、開発した福祉用具・機器がより広く利用されるためには、開発品の導入効果を検証し、これらを扱う福祉用具専門員等の関係者に対して情報提供していくことが重要です。

そこで、開発品の導入効果を検証する実験の方法や、倫理的配慮について、また福祉用具情報システムへの登録を始めとするさまざまな支援制度についてご紹介する2日間の研修会を開催します。

- 日時 【1日目】 2021年12月16日(木) 午後1時30分～午後4時45分
【2日目】 2022年 1月12日(水) 午後1時30分～午後4時45分
・原則として、2日間の受講をお願いいたします。
・ご都合がつかない場合は、1日目のみ、または、2日目のみの参加も可能といたします。
- 開催方法 オンライン開催
※Web 会議システム(Microsoft Teams(マイクロソフト チームズ))を使用します。
※面談・ヒアリングは、希望者が多い場合、別日程で行う場合があります。
- 定員 25名(申込先着順)
- 参加費 無料
- 申込 下記のURLからお申し込みください。12月2日(木)午後5時締切とさせていただきます。
<申込みフォームのURL> <https://forms.office.com/r/wnm6zuzXxP>
お問い合わせはこちらまでお願いいたします。
一般社団法人 人間生活工学研究センター 人材育成担当
E-mail: soumu_ot@hql.jp (TEL:06-6346-9912)

■ 内容

(1)研修会(1日目)

講演1 13:30～14:30	<p>「人にやさしいものづくり入門」 人にやさしいものづくりのための製品開発プロセスと、各プロセスで用いられる手法や人間特性データを紹介します。また開発した福祉用具・機器の導入効果を検証するための実証実験計画の立て方、実験結果に基づく広報についても紹介します。</p> <p>講 師:一般社団法人人間生活工学研究センター 事務局長 畠中 順子</p>
講演2 14:40～15:40	<p>「テクノエイド協会における福祉用具・機器の開発・販路開拓の支援事業」 テクノエイド協会で実施している、福祉用具ニーズ情報収集・提供システム、福祉用具ヒヤリ・ハット情報、福祉用具・介護ロボット実用化支援事業(厚生労働省)、シーズ・ニーズ・マッチング強化事業、福祉用具情報システム(TAIS)について紹介します。これらは、福祉用具・機器の開発に取り組む企業の皆様にご活用いただけます。</p> <p>講 師:公益財団法人テクノエイド協会 企画部長 五島 清国 氏</p>
面談・ヒアリング 15:45～16:45	<p>効果的な実験計画の立て方、実験対象者への倫理的配慮、倫理審査申請書の書き方など、個別にアドバイスさせていただきます。事前申し込みをお願いします。</p> <p>相談対応者:一般社団法人人間生活工学研究センター 事務局長 畠中 順子</p>

(2) 研修会(2日目)

講演1 13:30~14:30	「生活や人に寄り添う機器開発・テクノロジー利用」 企業等との共同研究・開発事例や、現在取り組んでいる3Dプリンティング技術を活用した支援機器提供システムの取組み等も紹介しながら、利用者視点に立った機器開発をするための考え方や気付きについてお話しします。 講 師:日本福祉大学 健康科学部 教授 渡辺 崇史 氏
講演2 14:40~15:40	「人を対象とする実験における倫理的配慮と倫理審査申請書の書き方」 人を対象とする実証実験を行う上で必要となる倫理的配慮について、その意義や倫理的配慮のポイント等を紹介しします。また人間生活工学研究センターの倫理審査申請書の様式を例に申請書類の作成方法を解説します。 講 師:一般社団法人人間生活工学研究センター 事務局長 畠中 順子
面談・ヒアリング 15:45~16:45	効果的な実験計画の立て方、実験対象者への倫理的配慮、倫理審査申請書の書き方など、個別にアドバイスさせていただきます。事前申し込みをお願いします。 相談対応者:一般社団法人人間生活工学研究センター 事務局長 畠中 順子

講師プロフィール

公益財団法人テクノエイド協会 企画部長 五島 清国 氏

1988年に国立療養所岐阜病院に入職後、社会福祉・医療事業団(現:福祉医療機構)、厚生省(現:厚生労働省)保健医療局を経て、93年より公益財団法人テクノエイド協会企画部に勤務。福祉用具・介護ロボットに関わる調査研究等に従事している。

<公益財団法人テクノエイド協会>

福祉用具の安全で効果的な利用を促進し、高齢者・障害者の福祉の増進に寄与することを目的として、福祉用具に関する調査研究・開発の推進、福祉用具情報の収集・提供、福祉用具の臨床的評価、福祉用具関係技能者の養成等を行う公益法人。

日本福祉大学 健康科学部 教授 渡辺 崇史 氏

専門はリハビリテーション工学、アシスティブテクノロジー(支援技術)。電機メーカーにて商品設計や要素技術の開発に従事した後、リハビリテーションエンジニアとして名古屋市総合リハビリテーション事業団での勤務を経て現職。障害がある人の福祉用具の適合相談や工学的支援、技術支援ネットワークの構築、および、支援機器の開発等に取り組んでいる。現在も積極的に地域に出向き各種相談・支援を行っている。博士(工学)。

<日本福祉大学 健康科学部>

リハビリテーション医療や介護などの“人の手”と、ICT、福祉用具やバリアフリー建築など“技術”の2つの方向から「ふくし」にアプローチしている。半田キャンパスにある日本福祉大学福祉テクノロジーセンターでは、工房を利用した福祉用具の製作・改造、福祉用具の適合に関する演習のほか、学内外の機関と連携しながら福祉用具・支援機器に関する共同研究・開発を進めている。

一般社団法人人間生活工学研究センター 事務局長 畠中 順子

1990年大阪大学工学部環境工学科卒業。メーカー勤務を経て、1999年人間生活工学研究センター入所。人間生活工学を活用した人にやさしいものづくりの普及と企業コンサルティングに従事。専門分野は、人間工学、人間生活工学。全国各地のデザインセンターや業界団体での講演多数。

<一般社団法人人間生活工学研究センター>

人間生活工学は、「安心・安全・快適・健康・便利」な生活を実現するための“ものづくり”の考え方と技術。企業が、人にやさしいもの・環境・サービスづくりを科学的・工学的に進めるためのさまざまなサポートを実施している。

以上